

■倉田百三 劇作家、評論家。「出家とその弟子」が広く読まれ、「愛と認識との出発」が青春必読書となるも、のち右傾化。

くらたひやくぞう

足尾鉦毒始・1891＝ 広島県比婆郡庄原村で、呉服商倉田吾作・ルイの長男に生まれる。姉4人、妹2人、唯一の男児であった。

日清戦争始・1894＝ 3歳：

白馬会・・・1896＝ 5歳：庄原尋常小学校入学。

ピア/国産化・1900＝ 9歳：

田中正造直訴1901＝10歳：庄原高等小学校へ進学。

日露戦争始・1904＝13歳：広島県立三次中学校入学。母方の叔母が嫁していた三次町の宗藤家に寄寓、宗藤家はこの地方の真宗在家集團の有力者で、**叔母から強い影響を受けて「歎異抄」を繰り返し読み、座右の書となる、**

日露戦争終・1905＝14歳：歌人中村憲吉の弟香川三之助と親友になり、三次中学校校友会雑誌や回覧雑誌に寄稿。

満鉄発足・・・1906＝15歳：休学し尾道の姉の家で1年間過ごす。

1907＝16歳：復学。前後して、既に岡山の第六高等学校へ進学していた香川に触発され、第一高等学校への進学を父に打診するも断られ、初恋の小出豊子と婚約は先方の都合で断念するが、一高進学を志し、

伊藤博文暗殺1909＝18歳：

韓国併合・・・1910＝19歳：首席で卒業。素行不良であったとされ、首席者は校旗捧持で記念撮影という前例を覆される。上京して、第一高等学校へ進み、文芸部と弁論部に所属。哲学を専攻して、西田幾多郎の「善の研究」の影響を受け、

明治天皇没・1912＝21歳：{校友会雑誌}に「生命の認識的努力」を発表し、京都へ西田幾多郎を訪ねるが、妹の同級生と恋愛に陥り、大正政変・・・1913＝22歳：その破局とともに、**結核にかかる。一高の文芸部の機関誌に寄稿した論文(のちの「愛と認識との出発」を含む)が学生自治組織による検閲で不適切とされ鉄拳制裁の対象となるが、耐え得る身体ではなく、寄宿寮を脱する。すなわち中退となり、以後、闘病生活が続く。**

第一次大戦始1914＝23歳：須磨から鞆に転地。庄原に独居。日本アライアンス庄原教会に通う。広島で入院。

21ヶ条要求・1915＝24歳：高山晴子と出会う。別府で療養。京都の西田天香の一灯園に妹と共に入り、深い信仰生活を送る。

民本主義・・・1916＝25歳：広島市丹那に転地。**相次いで姉が、さらに祖母も死去したのに衝撃受け、犬養健らとともに創刊した同人誌「生命の川」に「出家とその弟子」を発表し、**

ロシア革命・1917＝26歳：晴子との間に長男が誕生。**\*自費出版するや青年たちの熱狂的支持で大ベストセラー、以後{白樺}で活躍、**

本格政党内閣1918＝27歳：戯曲「俊寛」。結核療養と肋骨カリエス手術のため九州帝国大学医学部付属病院の久保猪之吉博士を頼り、内妻晴子・長男地三と共に福岡県福岡市今川の金龍寺境内の貝原益軒記念堂に仮寓。武者小路実篤が起こした「新しい村」に賛同し協力していたため、新しい村の福岡支部とされる。

ベルサイユ条約・1919＝28歳：兵庫県明石に移転。**京都で「出家とその弟子」初演、東京有楽座でも上演され、作家的地位を確立。**

大暴落・・・1920＝29歳：「歌はぬ人(俊寛)」。単身で上京、大森に住み、晴子とは離縁。伊吹山直子と知り合い、直子は父の反対を押し切り家出、倉田百三のもとへ奔る。

原敬首相暗殺1921＝30歳：戯曲「(俊寛)布施太子の入山」。**\*書きためていた評論、感想をまとめて「愛と認識との出発」と題し、岩波書店より刊行。阿部次郎の「三太郎の日記」とともに、旧制高校生の青春必読の書となる。**

水平社結成・1922＝31歳：「父の心配」「処女の死」「静思」、

関東大震災・1923＝32歳：「転身」。**{アララギ}に入会。この間、「出家とその弟子」は世界各国で翻訳され、**

護憲三派圧勝1924＝33歳：母ルイ死去。直子と結婚。「超克」。**絶賛したロマン・ロランから手紙、**

治安維持法・1925＝34歳：「標立つ道」「希臘主義と基督教主義との調和の道」。**再び、手紙があるが、強迫神経症で入院。**

円本時代始・1926＝35歳：「一夫一婦か自由恋愛か」「桜児」。**\*以降{生活者}を主宰、倉田を慕う若い人びとが集まる。**

金融恐慌・・・1927＝36歳：父を看取る。神経症を患い、**森田正馬の治療を受ける。**

海軍軍縮条約1930＝39歳：「絶対的生活」「恥以上」、

満州事変・・・1931＝40歳：「冬鷲」、

五一五事件・1932＝41歳：「神経質者の天国 治らずに治った私の体験」「生活と一枚の宗教」、

国際連盟脱退1933＝42歳：**親鸞研究を通して日本主義に傾き、国民協会結成に携わり、機関紙の編集長となり、**

帝人疑獄事件1934＝43歳：「大乘精神の政治的展開」「一枚起請文・歎異抄 法然と親鸞の信仰」、

芥川直木賞始1935＝44歳：「祖国の娘」。**国民運動パンフレット「日本青年の往くべき道」、**

二二六事件・1936＝45歳：「信仰読本親鸞聖人」「生きんとて」「女人往生集(光り合ふ女性たち)」、

日中戦争始・1937＝46歳：

健保+総動員 1938＝47歳：「大地にしく乳房」「祖国への愛と認識」、青春告白の書簡集「青春の息の痕」。

第二次大戦始1939＝48歳：「浄らかな虹」。**「日本主義文化宣言」など、ファシズムを先導して、**

大政翼賛会・1940＝49歳：「法の娘」「親鸞」「光り合ふいのち」、

日米開戦・・・1941＝50歳：「共に生きる倫理」、

・・・1942＝51歳：「東洋平和の恋」、

創価学会検挙1943＝52歳：東京大森の馬込文学園の自宅で、**没した。**

翌年、「その前夜」「大化の改新」が刊行された。